

令和 3 年度 自己点検・自己評価 報告書

自己点検・評価対象期間

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 31 日

令和 4 年 6 月 24 日



令和 3 年度 自己点検・評価について

自己点検・自己評価の目的は、学校の教職員自らが定期的に学校を点検評価し、学校運営並びに教育活動の改善、質の向上を図ることにある。本校では、平成20年度より自己点検評価を続けてきた。平成23年度より、特定非営利法人「私立専門学校等評価研究機構 専門学校等評価基準」の点検項目を基に実施し、各項目に対し「適切」「ほぼ適切」「やや不適切」「不適切」の4段階の評価点をつけている。

この報告書は、第2回学校関係者評価委員会（H27/06/29実施）の意見を取入れ、点検中項目の現状、評価、状態と、点検中項目に対する課題・方策の内容、状態、そして各項目の成果・効果をまとめたものである。現状の状態は、評価点が4点未満の項目を改善の必要ありとして「要改」、「要改」項目の評価点が4点となった場合は「改善」、前回から引き続き4点の項目は「維持」とし、すでに「維持（評価4点）」の状態であるが、更に発展した項目は「進化」とした。また、課題・方策の状態は、新しく追加されたものは「新規」、前年度より継続しているものは「継続」と表記している。

令和3年度の自己評価点は3.84となり、引き続き概ね適切と評価できる。全評価47項目の内、「進化」が6項目、「維持」が29項目、「改善」が0項目、「要改」は12項目の状態である。昨年度との比較において「基準4 教育成果」「基準5 学生支援」「基準6 教育環境」の項目で「維持」の数が多くなっている。新型コロナウイルス感染症により「維持」をして改善を図った部分もある。評価点としては変わらないが、一般学生はここ数年で一番N100に近づく入学者数となり、質の向上を目指し、自立学習の確立に向けて進んできた成果が表れている。

次年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、教育活動の質を低下させることなく、本年度と同様に改善活動を継続して「質の高い職業人の養成」を目指していきたい。

令和 3 年度 基準大項目評価点

基準大項目 1	教育理念・目的・育成人材像等	【4.00】
基準大項目 2	学校運営	【3.90】
基準大項目 3	教育活動	【3.88】
基準大項目 4	教育成果	【3.87】
基準大項目 5	学生支援	【3.89】
基準大項目 6	教育環境	【4.00】
基準大項目 7	学生の募集と受け入れ	【3.81】
基準大項目 8	財務	【4.00】
基準大項目 9	法令等の遵守	【3.75】
基準大項目 10	社会貢献	【3.30】
	基準大項目平均値	【3.84】

※ 評価点は、4 (適切)、3 (ほぼ適切)、2 (やや不適切)、1 (不適切)、NA (No Answer)としている。

令和 3 年度 重点課題対応結果

重点課題 1 新型コロナウイルス感染症防止対策。

対応結果： 令和 2 年度と同様に引き続き感染対策が必要となり、令和 3 年 4 月に発令された「まん延防止等重点措置」に伴い引き続き自宅での検温やマスク着用など指導を徹底した。さらに学内においては消毒液の設置数を増やし、感染防止対策を行ったことで、学内での感染者を出すことなく運営ができた。

国際情報ビジネス学科については、緊急事態宣言中の授業においては分散登校を行い、状況に応じてオンライン授業に切り替えて感染防止対策を行った。さらに日常生活の中においても常に感染予防を意識するように指導した。

重点課題 2 緊急事態宣言による混乱からの教育活動の維持と新たな取り組みの推進。

対応結果： 令和 3 年度においては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、できる限り教育活動を低下させないようにした。令和 2 年度に実施できなかった業界就職率をあげるためのイベントの実施や、卒業研究発表会においては、学生が滞留しないように学年や学科により入れ替えをはかるなど、企業や保護者など外部の方にも見学していただけるようにした。

また国際情報ビジネス学科においても、感染予防に努めながら学科イベントや行事を行った。さらに分散登校とオンラインの授業を並行して行い、オンライン用の教材の研究を進めるなど対策を図った。

重点課題3 問題学生に対する指導強化による退学・休学・除籍者の低減。

対応結果： 平成30年度から実施している「STAI」State-Trait Anxiety-Inventory(状態不安と特性不安)の結果から、不安を抱えている学生は退学傾向にあることがわかっている。特に状態と特性が2つとも高い場合には早期の対策として面談の実施や保護者との連携を強化してきた。家庭環境や対人関係のストレスを抱えている場合、臨床心理士が介入しても退学率の低減を図ることは難しかった。しかし休学者のケアや登校日に欠席した学生への早めの指導を徹底することができた。引き続き臨床心理士と連携を図りながら学生一人ひとりを支援して退学率の低減をしていきたい。

国際情報ビジネス学科においては、新型コロナウイルスの世界的な影響で経費支弁が受けられない学生も多く、退学率の低減には至らなかった。今後も学生自身のキャリアプランを明確にすることで、目的意識を高めていけるような指導を行っていく必要がある。

重点課題4 各部署が事業計画に置いて策定した「自律→自立学習の確立」の1年目の目標達成。

対応結果： 令和3年度より年度方針が変わり「自律→自立学習の確立」に向け、各部署が目標を達成させるために事業計画にて発表した内容を遂行してきた。4月の初めから「まん延防止等重点措置」が発出されたため、令和3年度と同様に感染予防に努めながら、業務を行ってきた。また各部署の連携を強化するため、情報の共有や目的に対する意識の共有など大切な部分で、しっかりと話し合う機会を作ってきた。2年目の目標達成につながるように全部署一丸となって、目標に向け邁進していきたい。

令和 3 年度 アーツカレッジヨコハマ 自己点検・評価報告書

基準大項目 1 教育理念・目的・教育人材像等

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		成果/効果
				内容	状態	
① 理念・目的・育成人材像は定められているか	現在の教育理念・目的は、2006年からのものであり今年度で17年目となる。内外ともに本校の役割、理念、教育システム、スローガンを周知している。本校の教育理念・目的は、本校の学生に対する役割を基に考えられたものであり、その役割は時代の変化とともに急激な変化するものではない。 しかし、育成すべき人材像は時代と共に変化するものと認識している。今後も、時代の要請に応じた人材育成のために、学科、教育編成、教育方法等を適宜見直し、教育理念・目的と共に周知していくことが肝要である。	4.00	維持	<ul style="list-style-type: none"> 教職員、学生、保護者等本校関係者すべての理解が必要であり、周知を続けていく。 時代の要請に応じた人材育成のために、学科、教育編成教育方法等を適宜見直しを行っていく。 	継続	
② 学校の特色は何か	IT技術を基盤とし、ゲームクリエイター学科、デザイン学科、情報処理学科、国際情報ビジネス学科、日本語学科の5学科で構成した専門学校である。自立した社会人になるための学校として、専門知識・技術教育と人間力教育を両輪とした教育内容であり、学生一人ひとりの強みと特性を伸ばすための「育てる教育（パーソナルプロデュース）」を教育方針として展開しているのが特色である。また、留学生に対して、日本企業で働く上で必要となる日本文化教育・ビジネス日本語教育を重要としてカリキュラムを展開している。	4.00	維持	<ul style="list-style-type: none"> 専門知識・技術教育については、現在実施している学科毎の企業と連携した教育課程編成の継続が重要である。 人間力教育については、教職員自らがお手本となるよう自己変革の継続をしなければならない。それが学生への教育の根幹であることを肝に銘じ、活動に移すことである。 日本文化教育については、日本の企業で働く上で必要となるマナーを基に、日本文化を掘り下げていく。 	継続	
③ 学校の将来構想を抱いているか	時代の要請と本校の教育理念/目的等を念頭に、ITを基盤とした、質の高い技術者・クリエイターを養成する職業人養成専門学校確立、自律/自立学習の確立を目指している。2014年度からの取り組みは、専門職人材養成としての各学科カリキュラムの確立であり、以前からの取り組みは本校教育の質、学生の質向上を目的とした授業改革である。教育方針であるパーソナルプロデュースは、教育の根幹の再認識（教える育てる）、そしてそれを実現するための教育方法の実現のためのものである。この一人ひとり育てる教育の上に、企業と連携したカリキュラムによる人材育成の確立、留学生には日本の企業で働くために大切な心の基礎となる、日本文化教育の確立を目指している。	4.00	維持	<ul style="list-style-type: none"> 2021年度から実施する各部署の3年計画の目標策定は中期的構想に繋がるものであり、毎年度の検証、改善を継続して実施していかなければならない。 日本語学科開講に向けた、募集計画や学生受入計画等の策定と実施。 	継続新規	<ul style="list-style-type: none"> 2018年度から実施した各部署3年計画「実績の積み上げ」の検証。 2021年度からの3年計画の方針「自律→自立学習の確立」を策定。
平均値						
4.00						

基準大項目 2 学校運営

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		成果/効果
				内容	状態	
① 運営方針は定められているか	目的は、本校が存在する意味であり、目標は達成のための指標であり、方針はそれをどのように行っていくかである。教職員全員が目的、目標、方針の違いを認識し、本校におけるそれぞれの内容をしっかり理解したうえで学校運営を進めなければならない。2014年度より、教職員全員に対し個人面談を行い理解のずれを調整し、運営を進めている。また、就業規則等の各種規定は必要に応じ改定し整備している。	4.00	維持			
② 事業計画は定められているか	毎年度実施する事業計画発表会において、事業計画の達成度と次年度以降の事業計画を確認している。学校の方針等は、単年度のものだけでなく、継続して実施すべきものも含まれ、結果および計画は、毎年度理事会、評議委員会で報告し承認を得ている。2021年度は各部署において新たな年度方針を定め「自律→自立学習の確立」を設定し、安定した学校運営、教育活動が継続できるように中長期的な計画を策定。計画の1年目を遂行した。	3.50	要改	<ul style="list-style-type: none"> 長期的に安定した学校運営、教育活動が継続できるように将来の設備投資に備えた財源確保のために、第2号基本金の組入れを考えた中長期計画を立てる必要がある。 	継続	<ul style="list-style-type: none"> 2021年度事業計画。

③	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	理事会、評議委員会は定期的、必要においては臨時に開催し、重要事項の審議を行っている。職業実践専門課程申請に伴い、運営組織に学校関係者評価委員会、各学科の編成委員会等を新たに追加し運営をした。また、2014年度より学校運営会議の時間短縮化、ペーパーレス化を実施し、会議運営の効率化を図っている。2021年度も感染防止対策として会議の報告内容は1時間以内とし、効率化を進めている。2016年度より学校運営会議の上位会議として、経営会議を設置した。	4.00	維持		
④	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	2014年度より、年2回実施していた教職員個人面談を年3回にふやし、教職員各人の役割、ミッションを明確にした上で達成度を評価する人事考課制度を整えた。これにより、従来の面談ではできなかった賞与、昇給、昇格との連動ができるようになった。人事及び賃金等に関する規程は就業規則に定め、整備している。また2021年度は2名の教員を採用することができた。	3.91	要改	・人事考課・評価制度の見直し	
⑤	意思決定システムは確立されているか	組織図のとおり、階層、権限等は明確になっている。各事案の起案は各部署の責任において行われる。必要において各部署会議、学校運営会議等で協議された後、理事長、校長の承認を得て確定事項となり、意思決定が明確になっている。重要案件は理事会の承認を得ている。2016年度より学校運営会議の上位会議として、経営会議を設置した。	4.00	維持		
⑥	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	学生管理システム、学生募集システム、学校会計システム及び各部署日常業務のほとんどはパソコンを活用して行われ、業務の効率化を図っている。また、学校内サーバーとは別に、学校運営会議や、校長と部署間に必要となる資料、データ等をクラウド化して共有している。2018年度には学内LAN工事を行い、PCの不作動等の障害が解消され、PC作業もスムーズになっている。2019年度より業務効率向上に向けて教育、学校会計、勤怠管理システムの導入を開始した。さらに2020年度より学生管理システムを導入し、更なる業務の効率化を図ることができた。	4.00	維持		
			平均値			
			3.90			

基準大項目3 教育活動

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		成果/効果
				内容	状態	
① 各学科の教育目標・育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	職業実践専門課程の取り組みの中で、年2回の教育課程編成委員会を実施し、業界のニーズに合わせたカリキュラムの作成ができるようになった。また教育目標や育成人材像をより明確にし、到達目標を決めることができるようになった。またデザイン学科では、さらに連携企業を増やしていけるように交渉した。国際情報ビジネス学科においても、今後ブリッジ人材として活躍を期待される業界への就職を目指し、就職状況および在留資格状況を検証してカリキュラムの見直しを検討した。	4.00	維持	・連携企業を増やすため企業への訪問・依頼をする。 ・国際情報ビジネス学科においては業界就職実績をあげるためのカリキュラム(技術・人文知識・国際業務の在留資格を取得できるカリキュラム)の作成をする。	新規	・デザイン学科の連携企業の強化 ・国際情報ビジネス学科卒業生進路一覧
② 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	各学科長が中心となり、年間の事業計画を作成し、業界で活躍するのに必要な専門知識・資格や技術を考慮した到達目標が掲げられ、育成に必要な修業年数を考えた学科運営をしている。目標に対する到達度は、事業計画に基づき各学期と年度末に学科長が結果の振り返りと検証を行い次年度に活かしている。	4.00	維持			

③	カリキュラムは体系的に編成されているか	<p>学校の教育方針である「一人ひとりを教えて育てる」という視点にたち、カリキュラムの作成を行っている。また職業実践専門課程の教育課程編成委員会であげられたカリキュラムに対する意見を取り入れ、業界のニーズを反映させたものとなっている。カリキュラムは、学科の授業や参加する学外イベントの1つ1つの内容がつながりを持ち、技術的、人間的にどのように成長するのかが理解できるものとなっている。国際情報ビジネス学科においては、カリキュラムを専門教育、ビジネス教育、基礎教育と位置づけ、学年ごとに到達目標を定めている。</p>	4.00	維持	<ul style="list-style-type: none"> 国際情報ビジネス学科では「ルーブリック評価」を導入し講師が共通認識を持てるように取り組んだ。 	継続	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの体系化を図ることができた。(カリキュラムツリー作成)
④	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	<p>学科ごとのカリキュラムに沿って、科目ごとにコマシラバスが作成され、全体・学期の到達目標、学習のねらい、定期考査基準が記入され、学生に動機付けがおこなわれている。また、講義予定表を作成し、予定に対して一日ごとに講義実績の振り返りを記入し、進捗の管理をしている。さらにシラバスのフォーマットを修正し、学生にとってより伝わりやすいものに変更した。</p> <p>国際情報ビジネス学科では、すべての科目を専門教育、ビジネス教育、基礎教育と位置づけており、効果測定のため「成果物作成または検定受験」を定めている。</p>	4.00	維持			
⑤	キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	<p>本校におけるキャリア教育とは「社会に出た時に必要な能力」と定義した。学んだ技術を活かすためには社会に出たときに積極的に人と関わりをもって仕事をしていく必要がある。よって企業連携講座においてもチーム制作の時間を増やした。また自分の作品を企業の方にプレゼンする機会を作り、作品に対するフィードバックをもらうなどキャリア教育の視点に立って授業をおこなっている。また、入学時および卒業時に社会人として必要な挨拶やビジネスマナー等を身につけるための実践的な研修を行うことで、キャリア教育の視点にたった教育を実施している。</p> <p>国際情報ビジネス学科では、多文化共生社会に向けてどのようなキャリアを積み上げることが望ましいかという視点に立ち、担任が一人ひとりと向き合い、キャリアコンサルタントとともにキャリアプランニングの指導を行っている。</p>	4.00	維持	<ul style="list-style-type: none"> 国籍や教育制度の違いからキャリアの価値観が大きく異なっているが、キャリアデザインという科目を卒業まで毎週実施し、様々な角度からキャリアを考える機会を提供している。 	新規	<ul style="list-style-type: none"> 個人カルテ・キャリアプランニングシートの作成。
⑥	授業評価の実施・評価体制はあるか	<p>学期ごとに教員に対する授業アンケートを実施・集計し、年に3回上長と面談する機会を設けている。上記アンケートの内容を非常勤講師にも各学期ごとにフィードバックしている。シラバスやコマシラバスを作成し、適宜授業の内容や結果を把握し、授業の改善をする仕組みがある。</p>	4.00	維持		継続	<ul style="list-style-type: none"> 各学期の授業アンケートを非常勤講師に確認してもらい、翌学期の準備に役立てるようにした。
⑦	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	<p>業界で活躍できる人材を育成するうえで必要となる専門の知識・技術を教える授業に関して、実際にその分野で就業していた人材または同等の力を示す資格取得者を担当に据えている。業界の知識・技術を陳腐化させないために最先端の業界知識・技術を学ぶため研修に参加し、報告書を作成し教員間で共有している。2021年度はゲームクリエイター学科プログラマーコースに10年以上のキャリアを持つ教員を採用することができた。また国際情報ビジネス学科ホテルサービスコースに1名の教員を採用することができ、日本語力向上を支援する講師や就業先で使用されるネイティブな日本語で高い専門分野の指導ができる講師を確保している。</p>	3.00	要改	<ul style="list-style-type: none"> 専任教員の採用 国際情報ビジネス学科では、留学生に合わせた教授法が必要であり、定期的な勉強会を実施する必要がある。 	新規	<ul style="list-style-type: none"> ゲームクリエイター学科においては2020年度にCGデザイナーコースの専任教員を1名採用した。2021年度には、業界経験が10年以上ある人材をプログラマーコース専任教員として1名採用できた。結果として専門性の強化を図ることができた。
⑧	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	<p>期末に試験を実施し、授業態度、課題、出席率等を考慮して成績評価を行う。成績は、点数によりA～Dの4段階で評価をしており、100～80点でA、80～60点でB、60～50点でC、50点未満がD評価となっている。D評価は単位認定不可となる。D評価を除いた学生が、A:B:C=1:2:1の割合を目安にしており、D評価の学生は、再試験や再課題を行い再評価の機会を与えている。この基準は、授業担当教員全体で共有している。</p> <p>国際情報ビジネス学科では、成績評価の中にルーブリック評価を取り入れて、各学科での主体性(自立)、規律性(自律)、日本文化・適応力を評価しており、成績評価とは別にルーブリック評価とその理由を学生にフィードバックしている。</p>	4.00	維持		新規	<ul style="list-style-type: none"> 国際情報ビジネス学科では、科目別ルーブリック評価シートを作成した。

⑨	資格取得の指導体制はあるか	各学科、取得目標資格の必須と推奨の区分がわかるように学生便覧に掲載している。業界就職をするにあたって資格が重要になってくる情報処理学科に関しては、学科カリキュラムの到達目標に資格取得を記している。科目ごとのシラバスでは学期ごとに目標にする資格と目的を記して指導にあっている。また合格実績や合格率を報告書にまとめている。 国際情報ビジネス学科では、授業シラバスに必須受験資格と任意試験資格を記載し、初回授業時に取得目的を伝えている。受験必須資格に関しては受験時期に合わせて講義予定を計画している。	4.00	維持		新規	・国際情報ビジネス学科では、就職対策ゼミを実施した。	
								平均値
								3.88

基準大項目 4 教育成果

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		成果/効果
				内容	状態	
① 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	月ごとに就職率を割り出し、就職課と学科長が定期的にミーティングを行なっている。学生個人カルテを利用することにより、学生の希望する業界や就職活動状況を把握し、個人の問題にあつた対応をしている。さらに業界就職率については、企業連携講座や業界の方を招いて、業界の動向や求める人材像について話す機会を設け、学生たちが業界への理解を深め、モチベーションを高めて就職活動に臨めるように支援した。また、学生が受けた企業から採用の情報や企業が欲しいと思う人材像やスキルをヒアリングし、データベース化する取り組みを始めた。国際情報ビジネス学科に関しては、就職支援担当とその他の進路支援担当と役割を分担し、学生のニーズに合わせた指導を行っている。	4.00	維持	・企業が求める人材と学生のマッチング率の向上を目指す。	継続 新規	・企業の採用情報のデータベース化
② 資格取得率の向上が図られているか	資格取得向上をめざして、国家試験前には対策する時間を増やし、資格取得の向上をはかった。ここ数年基礎学力が低下していることは明らかであり、早めの対策を行う必要がある。引き続き学生の動機づけを行い資格取得の向上を図っていききたい。国際情報ビジネス学科では、資格取得率の向上のため、試験担当者が受験結果を分析し、次年度の講義予定に反映をしている。また試験実施状況は年度ごとに集計し、推移を記録している。	4.00	維持	・国際情報ビジネス学科では、日本での就職の選択の一つとして、特定技能試験のサポートを行った。	新規	
③ 退学率の低減が図られているか	退学率の低減をはかるために、登校日に休んだ学生のケアを早めに行い早期面談を実施した。また例年通り早めに臨床心理士(スクールカウンセラー)に相談し連携を図ったが、家庭環境や対人関係での悩みを抱えている学生が多く、退学率の低減には至らなかった。国際情報ビジネス学科においては、新型コロナウイルス感染症の影響で経費支弁が受けられず、退学を選択する学生が増えてしまった。退学率の低減をはかるためには、学生自身のキャリアプランを明確にすることが重要である。	3.50	要改	・学生の悩みの傾向と対策を図る。 ・国際情報ビジネス学科では、担任・コース担当・キャリアコンサルタントが連携しキャリア支援を行う。	継続 新規	・STAI:State-Trait Anxiety Inventory(状態-特性不安検査)を実施したことで、退学する可能性が高い学生の見極めができるようになった。 ・臨床心理士(スクールカウンセラー)と隔週で打合せを実施家庭環境やクリエイティブ・能力対人関係など相談内容を把握し担任が面談で状況を把握できるようになった。

④	卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	卒業生や在校生の活躍情報を適宜把握し、その成果をしっかりと評価している。在校生においては成果をおさめた学生に対し、定期的に表彰を行っている。また企業と連携を図り、情報を収集し、携わった作品や仕事についての情報を把握している。またSNSを活用し、卒業生に情報を発信する機会を作り、卒業生が共有できるようにしている。国際情報ビジネス学科においても、SNSを活用し在校生の資格取得の表彰の様子やイベント行事を紹介している。また、卒業生の活躍の様子はFacebookを通じて把握し、学校のSNSで紹介している。	4.00	維持		
			平均	3.87		

基準大項目 5 学生支援

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		成果/効果
				内容	状態	
①	就職に関する体制は整備されているか	4.00	維持	<ul style="list-style-type: none"> ・時勢に合わせて学生への就職活動を早める指導を行った。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で2020年度に実施できなかった「就職作品展覧会」を実施し、企業と学生のマッチングを強化した。 	継続新規	<ul style="list-style-type: none"> ・学内でオンライン説明会や面接をできるように整備した。 ・国際情報ビジネス学科では、日本独特の就職活動に向けた書類作成の指導・添削を実施。
②	学生相談に関する体制は整備されているか	3.66	要改	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の学生対応スキルや意識の向上を目指すために研修やセミナーに参加をする。 	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修にて「コーチングスキル」を向上するための研修を行った。
③	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4.00	進化	<ul style="list-style-type: none"> ・教育訓練給付制度の対象機関として約1年半が経過するが、対象となる方の来校等接触が無い。改めて高校既卒者対策のひとつとして告知の強化を図りたい。 		
④	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4.00	維持			

⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか	スポーツ等のクラブ活動、その他、課外活動は、学生の主体性や協調性を養うものとして、学校教育には欠かせないものになっている。学校でもサークル活動の支援体制を整えている。学生が達成感を得られ、充実した学生生活が送れるように支援していく。	4.00	維持	・国際情報ビジネス学科では、スポーツのサークル活動の申し出があり、近隣の室内運動施設にて実施をした。	・サークル活動の実施
⑥	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	寮を希望する学生は減少傾向であるが、民間学生寮と提携し案内している。また留学生に対しては、九州や東北など地方からの入学者が増えており、同じ国籍の在校生に、住いやアルバイトについての相談ができるよう接続を行い、気軽に相談できる体制を整えて不安を解消している。日本語学科の認可に伴い、寮の確保を進めていく。	4.00	進化	・学生寮を確保するための手続きを進めた。	
⑦	保護者と適切に連携しているか	保護者に学生の進路に対しての協力を依頼するため、6月と7月に就職保護者説明会を実施し、就職活動状況や企業の採用に関する動向を話す機会を設けている。学生の進路にむけた保護者との連携と協力の依頼が目的である。2017年度から平日にも説明会を開催し、就職活動に向けた支援をお願いしている。これにより保護者の参加率も向上した。	4.00	維持		・保護者説明会を平日開催したことにより保護者の参加人数が増えた。
⑧	卒業生への支援体制はあるか	卒業後も転職相談等があった場合、必要に応じて個別に対応している。資格等のフォローは、テキストの紹介、受験案内を渡すなどの対応を行っている。さらにはfacebookやtwitterなどを活用して、卒業生とタイムリーに情報を共有できる仕組みを作っている。また同窓会の機能として、学園祭でブースを設置し、卒業生どうしがコミュニケーションをはかる機会を設けている。留学生については、特定活動ビザで就職活動を継続する学生の支援を行っている。	3.50	要改	・卒業後の資格のフォローアップ講座やセミナーの実施。	新規 ・SNSを利用した卒業生向けの求人情報の提供。
			平均値			
			3.89			

基準大項目 6 教育環境

点検・評価項目(中項目)		現状の説明	評価	状態	課題・方策 内容	状態	成果/効果
①	施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	各学科のカリキュラムに基づき、授業が円滑に行えるよう必要十分な設備・機材を計画的に購入し、常に良好な状態を維持することを心がけている。2021年度よりゲームクリエイター学科、デザイン学科、情報処理学科それぞれの学科に適したパソコンを購入している。また定期的に実習室のパソコンの整備を行っている。国際情報ビジネス学科においては、各教室に常設のプロジェクターを配置し、オンライン授業にも対応できるようにした。	4.00	進化	・常に良好な状態を維持するために、計画的に整備する。	継続	・教室に常設プロジェクター設置。
②	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	学外実習においては、クリエイターEXPO、コミティア、東京ゲームショウなどのイベントに参加して、自分の作品を発表する機会を設けている。また学校パンフレットやWebサイト、校内掲示などの過去の実績を目にした企業から毎年、学生への仕事の依頼があり、一定の成果を上げることが出来ている。デザイン学科においては、イラストコンテストに参加し、年間で9名の学生が賞を受賞しており、ここ数年で一番の実績を出すことができた。国際情報ビジネス学科においては、地方自治体と連携して「現場型のインターンシップ」を実施した。	4.00	進化	・コンテストに参加し評価を得ることで、学生への達成感を与えることが大切である。 ・紋別市国際交流課と連携し留学生への移住の動機付け、在留資格取得、定住支援を含めたスキームの構築を実施した。	新規	・デザイン学科において入賞をあげることができた。 ・紋別市インターンシップの実施

③	防災に対する体制は整備されているか	年1回避難訓練を実施。学生を速やかに安全な場所に避難させることを第一と考えて体制を整えている。防災プロジェクトを発足し、災害発生マニュアルを整備し、職員の意識を統一している。防災プロジェクトは年間2回ミーティングを行い学生一人ひとりに長期で保存可能な防災セットを常備した。また9月の防災訓練後に検証会を行い、今後の課題や対策について話し合いを行った。	4.00	維持	<ul style="list-style-type: none"> 年間2回の防災プロジェクトの実施、避難訓練実施後に検証会の実施。 防災マニュアルの作成を開始する。 	継続	<ul style="list-style-type: none"> 非常用投光器とトイレの購入。 	
								平均値
								4.00

基準大項目7 学生の募集と受け入れ

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		成果/効果
				内容	状態	
①	学生募集活動は、適正に行われているか	3.75	要改	<ul style="list-style-type: none"> パンフレットは完全分冊化にすることで、知りたい情報をピンポイントで知ることができるようになることを期待できる。また動画との連動で、学校の様子や学生作品など、従来は画像で伝えていたものからわかりやすいものとなっている。 他のSNSとの連動や、特に本校希望者が利用しているTwitterへの取り組みを強化し、情報収集が変化している高校生に合わせた広報展開をしていく。 学校を知ってもらう「広報」への働きかけを強化し、認知度向上につなげることも必要である。 	継続新規	<ul style="list-style-type: none"> 2021年度入学生用パンフレット。 各学科分冊版パンフレット。 オンライン型説明会の開催
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.50	要改	<ul style="list-style-type: none"> 教務部からの早いフィードバックの仕組みを構築。 高校生も動画視聴は生活の一部であり、今後も作品やイベント在校生インタビューなど内容の充実を図っていく。さらに内定者や卒業生が企業からどのような評価を受けているのか、企業コメントを収集することも行っていきたい。 オープンキャンパスにおいて、在校生、卒業生と話ができる機会を設定しており、特に就職活動における評価ポイントなどを説明している。 	継続	
③	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	4.00	進化	<ul style="list-style-type: none"> 一般学生においては、今後も質の高い学生を受け入れるべく受験者の状況みながら基盤作りを進めていく。 国際情報ビジネス学科においては、次年度は卒業延期をした学生と日本語学習期間が例年より1年近く少ない学生と両極端日本語能力になると見込まれる。日本語学校の現状をヒアリングした上で、試験内容や基準を見直ししていく必要がある。 	継続新規	
④	学納金は妥当なものとなっているか	4.00	進化	<ul style="list-style-type: none"> 一般学生の諸経費であるが、現状の使用状況を考慮し、2020年度入学生より、毎年一律13万円から、学年別に納入金額の変更を募集要項に記載した(卒業までの合計金額は同額)。国際情報ビジネス学科の諸経費も消費税等の与件から、毎年5万円から7万円とした。その他、学費の分納、あるいは延納に対する相談は個々の家庭の状況を鑑みながらケースバイケースで対応している。 		<ul style="list-style-type: none"> 一般学生の諸経費であるが、機材・教材の充実を図るため、学科別学年別の金額体系に変更する。2021年版募集要項に記載する。 国際情報ビジネス学科は現在2回分納だが、分納期間のタイミングをバランス良くするため、2年次初回の納入時期を3月から2月に前倒しをする。
		平均値				
		3.81				

基準大項目 8 財務

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		成果/効果
				内容	状態	
① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2021年度は国際情報ビジネス学科の受け入れを増員し、学生数の確保をした。さらに日本語学科の募集活動を再開した。また現在、借入金は無く、予算・収支計画は中長期的に安定するように努めている。しかしながら財政に余裕がある状況では無いので、将来的な展望を見据えて計画していく必要がある。	4.00	維持			
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	予算収支計画は、次年度の事業計画案作成時に、校長と各部署長と協議の上作成し、理事会・評議員会で承認を得ている。予算は毎月の経理会議で進捗を管理し、妥当に執行している。	4.00	維持		継続	・2022年度予算書。
③ 財務について会計監査が適正に行われているか	私立学校法に定められた通り、法人の財務状況について、監事(税理士)による会計監査が行われ、会計年度終了後に、監査報告書を理事会・評議員会に提出し、承認を得ている。また、学校法人会計基準改正に伴う計算書類の整備をした。2018年10月には学校検査があり、決算書と予算書についての不備指摘事項は修正済み。また、2019年度より学校会計システムを導入しており、学校会計の適正な運用と効率化を進めている。	4.00	維持		継続	・2021年度決算書。
④ 財務情報公開の体制整備はできているか	私立学校法に定められた書類を整備し、対応できる状態である。また、2014年度より従来の財務情報公開の体制に、本校Webサイトでの公開を追加した。	4.00	維持			
平均値						
4.00						

基準大項目 9 法令等の遵守

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		成果/効果
				内容	状態	
① 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令、設置基準を遵守しており、専門学校として適正な運営をし、毎年度所管の神奈川県より現況調査を受けている。又、3～4年間隔で学校検査を受けている。2018年10月に検査が実施され、不備の指摘のあった育児・介護休業規程については2020年度に改善済み。法令や設置基準改正等については、その都度教職員に周知している。2021年度から両立支援会議を実施し、法令に沿った職場環境改善を進めている。	3.50	要改		継続	・ヘルプライン規程 ・人間ドッグ利用補助規程
② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	志願者、学生、卒業生および教職員、学校関係者の個人情報は、個人情報保護規程に従い各部署で管理運用し、各部署のパソコンおよびサーバーには部外者が扱えないよう、セキュリティー対策を施している。クラウド化も進めており、セキュリティー強化と保全強化を図っている。また、本校Webサイトにはプライバシーポリシーを掲載し、個人情報入力フォームにはSSLを導入し暗号化している。学生には入学後のオリエンテーションの際に個人情報について説明。同意書に署名をし、提出してもらっている。留学生は学費納入の話をする際に同時に個人情報について説明。同意書に署名をし、提出してもらっている。セキュリティー対策として2018年度には学内LAN工事を行い、セキュリティー強化をしている。	3.50	要改		継続	・携帯用の電磁記録媒体の取り扱い管理強化。 ・個人情報に対するセキュリティー強化(電磁記録媒体)。
③ 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	校長と各部署長をメンバーとした自己評価委員会を組織し、自己点検評価を実施している。2011年度からは私立学校等評価研究機構の点検ブックを参考にして点検項目を各部署に割り振り点検評価を行い、継続して改善を続けている。	4.00	維持			

④	自己点検・自己評価結果を公開しているか	自己点検評価の項目を大項目、中項目、小項目に分け実施し、中項目の現状、大項目の自己評価と改善方策を報告書としてまとめ、理事会・評議員会で報告し承認を得ている。そして、この報告書の自己評価内容および改善方策を学校関係者評価委員会で審議する体制を整えた。また、2013年度の評価結果より、本校Webサイトでの公開を開始している。	4.00	維持		
			平均値			
			3.75			

基準大項目10 社会貢献

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		成果/効果
				内容	状態	
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	2015年度から地域町内会、西区、学生の地域活性プロジェクトを発足し、「地域コラボミーティング」や町内盆踊りおよび健民祭のポスター制作を行ってきたが、2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域との交流の機会を持てなかった。今後どのように地域との関わりを持つか検討が必要である。 国際情報ビジネス学科においては、日本語教育の経験を活かし、地域の日本語ボランティア講師の指導や在留外国人に対するオンラインでの日本語講座を実施し、日本語教育を通じて、多文化共生に向けた社会貢献を行った。	3.60	要改	・再就職希望の社会人や非正規雇用の若年者がキャリアについて学びなおしの機会を得るための独自講座の計画。	新規	・高校生マンガイラストコンテスト開催。 ・高校生ITアプリアイデアコンテスト開催。 ・横須賀商工会議所主催日本語コミュニケーション講座。 ・かながわ地域日本語教育フォーラムへの参加。
② 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	社会人に必要な力を身につける目的で、ボランティア活動の意義を学生に伝えている。掲示板をアーツポータルを有効活用し、ボランティアの案内を積極的に推奨した。2019年度よりCEDECのボランティアスタッフとして運営の手伝いを行ってきたが、2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響で参加できなかった。今後は新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、学生にボランティアや学外での活動の機会を提供できるように支援したい。	3.00	要改	・学生にボランティア活動の意義を伝え、今後の状況を見ながら活動の支援を行っていく。	継続	・オンラインでも参加できるイベントの周知。
		平均値				
		3.30				
		総平均値				
		3.83				

令和 4 年度 重点課題

令和4年度においては引き続き下記4点を重点課題としたい。

重点課題1 感染症防止対策の徹底と教育活動の維持と推進。

重点課題2 問題学生に対する指導強化による退学・休学・除籍者の低減。

重点課題3 各部署が事業計画に置いて策定した「自律→自立学習の確立」の2年目の目標達成。

重点課題4 新システム活用の強化と推進を図る。

以上